

### 論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 澤井昭宏

論 文 題 目

Impact of non-invasive cardiovascular screening programs as a predictor of cardiovascular events among asymptomatic chronic kidney disease patients

(無症候性の慢性腎臓病患者における心血管イベントの予測因子としての非侵襲的心血管スクリーニング検査の効果)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

有馬 寛



名古屋大学教授

委員

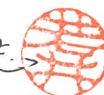
若谷 雅文



名古屋大学教授

委員

若井 建志



名古屋大学教授

指導教授

丸山 彰一



## 論文審査の結果の要旨

今回、名古屋大学附属病院における慢性腎臓病(CKD)外来患者のコホートを作成し、各種の血管スクリーニング検査を実施し、心血管病(CVD)イベント発症との関連を検討した。全 139 名中 13 名で CVD イベントを発症し、イベント発症と蛋白尿および腎機能には有意な相関は認めなかったが、冠動脈石灰化および頸動脈プラークの肥厚とは有意な相関を認めた。また、両者を組み合わせることで、CVD イベント発症のリスクを層別化できた。この結果 CKD 患者における CVD スクリーニング検査として冠動脈石灰化及び頸動脈プラークの評価は有用であると考えられた。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 血管石灰化によって動脈壁のコンプライアンスが低下する。結果、脈波速度が上昇し冠動脈灌流圧が低下することと、脈圧上昇による後負荷の増加によって、左室肥大および心筋虚血が引き起こされる機序が考えられている。
2. 今回のコホートにおいて、イベント予想に ABI が有意ではなかった原因としては、コホート全体の症例数が少なく、また ABI が有意に低下していた症例が全体の 1 割程度と比較的少数であったためと考えられた。冠動脈石灰化や頸動脈の重度の肥厚は有病率が高く、今回のイベントリスクの層別化に優れていたと考えられた。また、以上よりより早期のリスク評価に有用である可能性が示唆された。
3. 両高リスク群では 20 名中 6 名がイベントを発症、片方高リスク群では 27 名中 4 名がイベント発症し、両低リスク群では 92 名中 3 名がイベントを発症した。
4. 100 日以下の追跡期間で追跡不能となったのは 4 名であり、結果に重大な影響は与えなかった。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

## 試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	澤井昭宏
試験担当者	主査	有馬寛	葛谷雅文	若井建志
	指導教授	丸山彰一		

## (試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 血管石灰化が心血管病の原因となる機序について
2. ABI検査がイベント発症予測に有用でなかった原因について
3. CACS, PSで群分けしたときのそれぞれの群の人数と各群でのイベント発症数について
4. 早期の追跡不能例の人数とその影響について

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、腎臓内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。